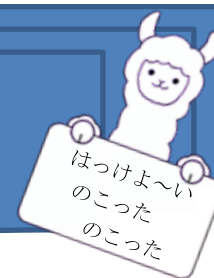


市川と相撲

(市川市ってどんな街？ 7)



市川市の多くの小学校には、相撲の土俵が設置されているのをご存じですか。現代では、土俵がある小学校は珍しく、土俵を設置しているのは、市川市の小学校の大きな特色です。市川市と相撲の関わりについて調べてみましょう。

市川市と相撲の関わりを調べる

1. 『市川市史 歴史編 4 変貌する市川市域』(市川市史歴史編IV編集委員会／編集 市川市 2020) I/B0/4
『市川市史』全7巻8冊(1971-1975)が刊行されてから30年以上が経過し、新しい市史の編さんにより刊行された「新市川市史」の資料のうちの1冊です。p. 329～334に「市川と相撲」が掲載されています。
2. 『小島貞二の世界 寄席と相撲が好き』(市川市文学プラザ 2009) Y/3
市川市文学プラザ(現市川市文学ミュージアム)で小島貞二生誕90年記念に開催された企画展の図録です。演芸、相撲評論家として活躍した小島貞二は1947年に中山に居を構え、2003年に没するまで市川市で暮らしました。p. 40～41に「相撲の盛んな市川」「市川ゆかりの角界人」が掲載されています。
3. 『市川市体育協会 30年史』(市川市体育協会 30年史編集委員会／編集 市川市体育協会 1981) IV/8
昭和23(1948)年に発足された市川市体育協会の30年史です。市川市体育協会に加盟していた「市川市相撲連盟」がp. 77～81に掲載されています。また、p. 16～17には、「市川と相撲」が掲載されています。

◆市川市相撲連盟◆

昭和31(1956)年、千葉県相撲連盟の理事長であった鈴木忠三氏により相撲協会が設立されたのが、相撲連盟の母体となりました。昭和41(1966)年に鈴木忠三氏により渡辺忠彦氏・橋本強氏に受け継がれ、二氏の努力により組織が作られ、優秀な人材も集まり、連盟としての形が整いました。定期的な練習会を行い、県民大会では、団体戦や個人戦で優勝するなどの成績をあげていましたが、専用の土俵がなく、早い機会に市民相撲場もしくは室内土俵を作りたいと希望していました。

『教育調査 昭和39年度』(市川市教育委員会／編 市川市 1964) p. 71の「市川市国府台公園体育施設」には、相撲場の記載がありませんが、『同 昭和45年度』(1970) p. 52には相撲場が記載されていることから、このころに連盟悲願の市民相撲場ができたと考えられます。

ただ、活動を続けていた連盟ですが、『市川市の教育 平成7年度版』p. 148の「市川市体育協会加盟団体」を最後に掲載がなくなり、平成7(1995)年度に解散されたと推測されます。平成7年度の会長は、市川市議会議員・千葉県議会議員などを就任された近藤喜久夫氏でした。

学校史で調べる

4. 『市川市立八幡小学校創立 150 周年記念誌』（市川市立八幡小学校 2023）書庫

p. 46「昭和 49 年、本格的な土俵が完成しました。以前より、子どもたちの体力づくりのために土俵はありましたが、（中略）小中学校規格の直径 3.94m、徳俵のある土俵をつくりあげました。同年 6 月 17 日には、全校生徒の応援の中で、春日野部屋力士の特別参加のもと、相撲部 26 名による土俵開きが行われました。」p. 19 に年表、p. 60「校舎見取り図」に土俵の位置があります。

5. 『中山小学校百年史』（中山小学校創立百周年記念事業実行委員会 1982）書庫

p. 63「すもう大会も戦後から行われていた。中山小の土俵は四十二年に一中の鈴木先生の指導のもとに、児童が土を運び、先生がたが盛土、地固めと労働奉仕をして完成されたものである。」p. 75, 77 の年表にも「市内相撲大会優勝」の掲載があります。

6. 『真間小学校五十年史』（真間小学校 1984）書庫

p. 85「昭和四十二年 土俵、砂場が出来上り、七月には相撲大会が行われた。そして、九月には土俵の完成を祝して、横綱の佐田の山が来校した。」

p. 87「昭和五十年 四月には、校庭の一隅に屋根つきの立派な土俵が出来上がって、土俵開きには、北の湖、増位山など三保ヶ関部屋の力士が来校した。」

『市川市教育施設の概要』（市川市教育会 1938）の「真間尋常高等小学校教育特殊的施設」p. 21 には、相撲場の写真が掲載されています。また、写真の横には「昭和 11 年 7 月 17 日土俵開キヲ行ヒ（中略）國技トシテノ相撲道ノ精神ヲ現代初等教育中ニ復活サセタイ」と解説があります。

7. 『国分：創立百拾周年記念誌』（市川市立国分小学校 1983）書庫

p. 78～79「五十一年（一九七六年）（中略）六月十日、地域社会との連けいを続けている国分小学校に、地元の人々の協力を得て、すもう場ができあがり、すもう場開きが行なわれました。」

市川市と相撲部屋

大鳴戸部屋

昭和中期と平成期に日本相撲協会に存在した立浪・伊勢ヶ濱連合（現・伊勢ヶ濱一門）の相撲部屋。朝日山部屋の元幕内・二瀬山が、1960 年に朝日山部屋から独立して市川市北方に大鳴戸部屋を創設しました。その後、他の部屋と合併、合流を繰り返しましたが、1995 年に部屋は廃業となりました。大鳴門部屋の看板は市川市歴史博物館で所蔵しています。

井筒部屋

戦時中から戦後、中山の法華経寺近くの法宣院に疎開していました。井筒部屋は代々鹿児島出身者で固められていましたが、疎開という社会状況が関係したのか、市川市に隣接している浦安市当代島出身の星甲昌男（初土俵 1942 年 引退 1964 年 最高位前頭 4 枚目）が所属していました。

三保ヶ関部屋

建設中の 1970 年代頃、法華経寺に仮住まいしていたことがありました。三保ヶ関国秋親方が法華経寺の管長と親交があったため、境内の一角に土俵を作りました。

市川市出身の力士

	力士名	出身地	入幕	初土俵	引退年	最高位
1	荒飛甚太夫	湊	1798			前頭4枚目
2	境川浪右衛門	高谷	1867	1857	1881	横綱
3	大蛇瀉大五郎	鬼越	1892	1885	1907	前頭筆頭
4	若島権四郎	原木	1896	1891	1907	横綱
5	稲葉嶽光之助	河原	1916	1911	1918	前頭14枚目
6	房錦勝比古	相之川	1957	1952	1967	関脇
7	旭豪山和泰	中国分	1989	1984	1996	前頭9枚目
8	小城ノ花昭和	大野町	1990	1983	1998	前頭2枚目
9	小城錦康年	大野町	1993	1987	2004	小結
10	琴龍宏央	原木	1996	1987	2005	前頭筆頭
11	鬪牙進	香取	1998	1991	2006	前頭筆頭
12	若孜浩気	市川市	2001	1995	2006	前頭12枚目
13	拓錦広之	市川市		2006	2016	幕下6枚目
14	星ノ富士	市川市		2021	2023	序ノ口3枚目
15	錦丸	市川市		2019		序二段28枚目

参考資料：資料1 (p. 332), 資料2 (p. 41), 『房総相撲博覧会 平成29年度企画展』(千葉県文書館 2017 p. 5), 『房総大相撲人國記』(谷口公逸/著 彩流社 2019 p. 220, 226, 315, 457, 469), 日本相撲協会公式サイト (<https://www.sumo.or.jp/>) (2024. 3. 14 確認)

◆◆浮世絵に描かれた力士◆◆

境川浪右衛門 (出身表2)

天保14 (1843) 年市川市高谷生まれ。境川部屋。

明治10 (1877) 年35歳で第14代横綱となりました。千葉県で最初の横綱です。この浮世絵は二代歌川国輝が1870年に描いたもので、『相撲浮世絵 房総の力士そろい踏み』(城西国際大学水田美術館 2021) p. 19 (図版31) に掲載があります。また、江戸東京博物館のデジタルアーカイブスでも閲覧可能です。

<https://www.edohakuarchives.jp/detail-9824.html> (2024. 2. 22 確認)



『相撲浮世絵』では、他にも二代歌川国輝が1873年に描いた「境川・小柳」の取り組み (p. 20 図版33) や、1873~1876年に描いた「見立通俗三国志」(境川が三国志の劉備に見立てられたもの) (p. 20 図版34) があります。また、p. 25 (図版43) には、二代歌川国明が1879年に描いた「御覧出世鏡」が掲載されていますが、こちらは明治12 (1879) 年6月場所の番付を絵とともに表した絵番付で、東方の大関に境川が描かれています。

大蛇瀉大五郎 (出身表3)

文久2年 (1862) 市川市鬼越生まれ。『房総大相撲人國記』(谷口公逸/著 彩流社 2019) p. 459 に珍しい大蛇瀉の版画 (春斎画) として掲載されています。

境川浪右衛門の時代は、大関が最高位で、明治23 (1890) 年5月場所から「横綱」の文字が番付に載るようになりました。「横綱」とは力士の最高位の地位を表しています。



こちらは二代歌川国明 (蜂須賀国明) が1878年に描いた「境川浪右衛門土俵入之図」です。前述の『相撲浮世絵』p. 27 (図版47) や資料2『小島貞二の世界』p. 30 に掲載があります。また、Web「ADEAC (アデアック)」で船橋西図書館所蔵の図版を閲覧できます。<https://adeac.jp/funabashi-digital-museum/catalog/mp005500-100020> (2024. 2. 22 確認)

市川市に在住した力士

	力士名	在住	出身	入幕	初土俵	最高位
1	栃錦清隆	行徳	江戸川区	1947	1939	横綱
2	栃ノ海晃嘉	宮久保	青森県	1960	1956	横綱
3	佐田の山晋松	市川	長崎県	1961	1956	横綱
4	蔵間龍也	市川市	滋賀県	1976	1968	関脇

参考：資料2 (p. 41)、日本相撲協会公式サイト

市川市に在住した行司

	行司名	在住	在位期間
1	二六代式守伊之助	大和田	1991.1～1992.9
2	二九代木村庄之助	曾谷	1995.1～2001.3
3	三四代木村庄之助	塩焼	2007.5～2008.4

出典：資料2 (p. 41)

行徳・徳願寺と相撲

8. 『房総叢書 第3輯 史伝3 地誌1 改訂』（千葉県郷土資料刊行会 1972）C10/B1/3

「葛飾誌略」のp. 460～461に「徳願寺」として、いくつか説明があります。「一、角力興行。寛政六甲寅十一月也。猿實村某、當境内を借りて立つ。此時に日本一力士谷風梶之介来り、日日土俵入りあり。横綱を廻し、小角力に脇差を持たせて土俵入りの式有り。凡角力の繁栄なる事、小野川・谷風東西の闘の時分ほど盛んなるはなし。此横綱の事は、司行事追風より免許也。其寫左に。(以下略)」。

9. 『行徳の歴史散歩（祖田浩一／著 行徳新聞社，明光企画(発売) 1984）I/B1/

「徳願寺」のp. 39には「寛政六年の十一月には、浦安の猫実の人によって境内で相撲が興行された。大関谷風が来て力の入った相撲ぶりを見せ、見物人も大いに満足した。」

資料2『小島貞二の世界』にも、p. 40「相撲の盛んな行徳」として、1794（寛政6）年の徳願寺相撲興行について掲載されています。また、行徳は、「江戸時代から相撲や力比べが盛んで、草相撲や寺社の祭礼での奉納相撲が行われました。」「各地の神社の境内には、今でも俵の形をした「力石」を見ることができます。」との掲載もあります。

千葉県と相撲

10. 『千葉県スポーツ史 2』（千葉県体育協会 1978）C10/V8/2

p. 315～323が「千葉県相撲連盟」で、戦後の千葉県相撲界について記載されています。また、昭和30年代、県下で相撲の盛んな都市として、市川市の記載があります。また、『千葉県体育協会五十年史』（千葉県体育協会 1998）では、p. 278～285に「千葉県相撲連盟」が記載されています。

図書館では皆様の調べ物や課題解決のために様々なお手伝いをしています。調べ方がわからない時は遠慮なくお問い合わせください。また、図書館のホームページからもお問い合わせいただけます。 お問い合わせ：市川市中央図書館 047-320-3346